



「ごまかしが利かない3年間の集大成」

今年の音楽会の練習を重ねる度に、前任校で本当にお世話になった校長先生に言われた「ごまかしが利かない」という言葉が、教師である私の中で蘇ってきていました。

1組の子どもたちと音楽会の曲について話し合っていた時、「3年間のまとめとして、1年生で歌った『幸せってステキだね』の曲を歌いたい」という意見が

出ました。子どもたちは、すぐにそれに賛同しました。でも、私は内心、「本当にそれでいいのかな…」という思いを抱きながらも、先に進めることにしました。当初、私は、去年のゆうきくんとのお別れの曲のようなしっとりとしたメロディーで3年間のまとめを歌った方がいいのではないか、という思いがあったのです。けれども、子どもたちがそこまでこだわるのならばやってみるか、という思いもありました。それでも、やっぱり、この曲を歌うことはおかしいのかも…という思いはずっとありました。しかし、子どもたちは違っていました。自分たちの3年間の最後のステージを存分に楽しむには、1年生の時に歌った『幸せってステキだね』しかないと思っていたのです。その証拠に、多くの子どもたちが、日々の振り返りに『3年生最後の音楽会を精一杯楽しみたい!』という思いを綴っていました。子どもたちは、11月に心くんとのお別れを経験したことで、さらに強くたくましくなっていました。練習中、子どもたちは本当に楽しそうに自分の心を解放して音楽を楽しんでいました。心身共にたくましく育っていても、純粋な気持ちで音楽に向かう姿勢は、1年生のころと何も変わっていませんでした。私は、それがすごく嬉しかったです。そして、一人一人の演奏する姿に、ごまかしが利かない3年間があるように感じられました。



また、当初決まっていた歌詞

『お別れした時には信じられなかった

心が乗ったトラックを桜が追いかけた

心も悲しいんだね』の部分が、Aさんはずっと引っかかっていました。そして、音楽会3日前に、「この歌詞おかしいと思う」と、全員に向けて伝えました。「悲しいのは心じゃなくて、桜なんじゃないのかな」と言うと、子どもたちも「確かに」「全然気づかなかった」と言いました。

そして、

『お別れした時には信じられなかった 心が乗ったトラックを桜が追いかけた **桜も悲しいんだね**』と歌詞を変更したのです。一人の子どもの考えであっても、そこに耳を傾け、納得がいくものであれば音楽会直前だろうがしっかりと受け入れていく子どもたちの姿、それも3年間のひとつの大事な姿だったように感じられました。音楽会直前であっても歌詞が変わったり、呼びかけをつけたり、最後の最後までより良い演奏にしていこうとする子どもたちの姿勢、それは、目の前で懸命に生き続けている桜・優・心にしっかりと向き合ってきたからこそなのかもしれません。何が起きるのかわからないヤギたちとの日々、その日々を心から楽しんだ子どもたちは、音楽会も全力で楽しみ切りました。